

編集後記

今回のBMNewsも盛り沢山な内容である。第106回技術例会では「カーボンニュートラルの実現に向けたパワエレ用素子及びモータの高性能化に寄与する軟磁性材料の開発動向」として7件ご講演頂いた。2025BMシンポジウムでは「高性能軟磁性材料の開発とパワエレ用への応用及び高性能永久磁石材料の開発とモータへの応用」として9件ご講演頂いた。それぞれ講師の皆様からご承諾頂いた資料のみ再掲載した。

寺子屋BM塾では加納喜明先生にモータ技術の基礎と自動車用モータの最近の話題として3連続講義をして頂いた。大変貴重な講義であり、徳永理事(寺子屋BM塾長)に各講義について詳しくまとめて頂いたので参考にして欲しい。

内外BM技術動向は諏訪部副会長に執筆をお願いした。MMM 2025 Conferenceで行われた講演についてアブストラクトを参考にしてご紹介頂いた。最近の研究対象の動向については是非参考にして頂きたい。

今回も寺子屋BM塾と軟磁性材料研究会はZOOMのみで開催した。寺子屋BM塾参加者数は40名程度、軟磁性材料研究会参加者数は30名程度であった。圧粉磁心の規格化・標準化部会は圧粉磁心試験方法ガイドブックの完成をもってひとまず部会は解散することにした。技術例会とシンポジウムはハイブリッド開催とした結果それぞれ100名程度の参加者となった。現地参加者は60-70名程度であり交流会参加者は8割程度である。情報交換の場としての現地の魅力が感じられる。

さて、今年度も事務局は2人体制で進めてきたが、無事に木村事務局長に引継ぎできることになったため、次年度からは再び1人体制で進める予定であり、私の編集委員長も今回限りとなります。長い間ご協力頂いた会員及び関係者の皆様に心からお礼申し上げます。

機関紙編集委員長
大森賢次